

令和8年度 技術科 3年 年間指導計画・評価計画

< 1 > 教科の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

< 2 > 各学年・各分野の目標

1. 生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。
2. 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。
3. よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

< 3 > 評価の観点及びその趣旨

知識及び技能	生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，表現するなど，課題を解決する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

< 4 > 観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。（80%以上）
	B	おおむね満足できる状況である。（50%以上）
	C	努力を要する状況である。（50%未満）

評定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度の高いもの。（90%以上）
	4	十分満足できる状況である。（80%以上）
	3	おおむね満足できる状況である。（50%以上）
	2	努力を要する状況である。（50%未満）
	1	一層努力を要する状況である。（20%未満）

< 5 > 指導上の配慮事項

- ①実践的、体験的な学習や問題解決的な学習活動の設定
- ②言語活動の充実
- ③ICT機器の活用
- ④個に応じた指導

技術科 3 学年 年間指導計画・評価計画

月	単元名 指導時数	ねらい・学習課題 学習活動	評価の観点		
			知能・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
4 5 6 7 9	プログラムによる計測・制御	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにおける電気製品について、自動的に仕事をする例を調べる。 計測・制御システムの基本的な構成を調べる。 コンピュータを利用した計測・制御の流れを調べる。 計測・制御をする目的や条件に応じて情報処理の手順を考える。 簡単な計測・制御をするためのプログラムを作成する。 	計測・制御システムにおける構成や、その中でプログラムによる情報の処理について理解する。	計測・制御の目的や条件を明確にし、適した情報処理の手順を決定している。	生活や社会の中で利用されている計測・制御技術の例を見つけることができる。
10	双方向性のあるコンテンツ (計 9 h)	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークを利用した双方向性のあるプログラムを作るための基本的な情報処理の手順を考える。 身近な問題を発見し、課題を設定し双方向性のあるコンテンツを製作する。 	設計に基づき、簡単なプログラムを作成できる。	設定した課題に対し、条件や要求を踏まえ構想を具体化できる。	利用者への影響などを考えプログラムを作成しようとしている。
11 12 1 2	表計算処理ソフトウェアの活用 (8 h)	<ul style="list-style-type: none"> 表計算処理ソフトウェアの機能や用途について調べてまとめる。 表計算処理ソフトを活用しいろいろなデータを取り扱うことができる。 	<p>いろいろなデータをソフトウェアの特性を利用し、そのことを理解し説明できる。</p> <p>正しいデータを入力し、表を完成させる事ができる。</p> <p>目的に応じた適切なグラフを選択し、グラフを完成させる事ができる。</p>	目的に応じた関数や見やすいグラフを学んだことを通じて工夫している。	表計算処理ソフトウェアの機能を理解し、取り組もうとしている。いろいろな関数を理解し、課題の解決に活用しようとしている。